

出く席(裏だの面さ可参い否)を同封の葉書でお知ら	場所商高所工岡レ商ス工トビラル	日時平成七年一度四月一〇日	す期年展りん開。待は帆昨開テ始財も奮に年催イす団つ参度いアるで込めて加めごで諸し集あ、参き般まいた平集案しか都内申いたに上だもりげけ、總まる今帆おラを	定員(ボクン)五〇に名達に次第締め切らせ	申込(葉書)三月三日(金)による申込は恒年左例度記のの事案とボ業内おラを	申込電話方連絡(葉書)0766-82-5181	使用(氷は見ま二〇ト食中は各自でご用意ください。	一一〇日こま航重三〇九平時とす作工海三〇〇三成及が業か王〇〇〇七びあ(天年予り候北富北北四定埠山埠月頭港頭頭五沖発で日着伴(伴航走水走路艇開説に始明乗等船	海王丸母港回航見学会
--------------------------	-----------------	---------------	---	----------------------	--------------------------------------	-------------------------	--------------------------	---	------------

ふ海一つ東にパ途 目借く暖埋ボに見とからト 楽しニ上り 遠里一た京入ナにこ頭し手かめス 送たけがガ七し交を陸ド実関しつた盛洋へ七の晴りマ就のがんをい尽ト汽りだ多 月ん流食時 習心 た海大航約日は海 運く後熱で振拍くン笛のち 数ド一でをべに船生のボ 王な海四間九埠途河こ くく手しに人に海見の六い深たは内は高ス見丸歓は二 月頭中をと海なれてやた別よ 登王送職日ためり名案 さト学は迎成 総一Dホ通に王るた本声見れる しり員のよた 物内バゲン者 で功○航日岸ノ過な丸思 船援送を長に よはのを出うり各のとス同市は翌、裡○程で壁ル後るはい首のがり告三にう たは港で 国口忙見わ民一日ボ阪に○二あにル だ出おのげ声 心礼係めじ當あ各のブし学れの四はス本終K二つ係に再海東配 港こ人たをえを留棧め日る自帆スい た帆四一ト了m た留寄び王京たにり々 吹る行索橋一は の船夕中陸 船七般ノ義し一六 索港太丸へ 私名か桟鳴とつをに般コ 時を 1で上 に○公に治たに七延をし平はの は 残大ら橋しとて放詰市 1 間訪やもパ 対人開入及一ペ送 洋 帰 ときはを も すめ民ス を船カ レ すにを港

訓練と 日まさ約 場所 日す得を
練てき当午四時すへ八平 場所 時 ボ海
内設は日後月 の力成 左シ丸
容け、一 月七 記テの
ま二雨時六 感月七 イハ
す三天三日 覚ぶ年 とアン
。日等〇へ をり年度 おのド
（で分日） 思にの総 とレ
日練 留中海 係年
一習練 展帆 実様！お
をが習 をが開 いのをに
練出開 いの前つ た協石
習來始.. 日な だりにい
日な とい し力ず
とい き高 まをり

当 すいに すたボキ てたラ樂し才たス中 支コタ〇たりの こ月王
に最 出戻四 だラ 乘残こんしたの キにこ援れ 1月。 皆ことが丸平
あ後 にり月 けんに船つとテむの時北 はののもトに私本様とのと過記成
りに 頑まかるテ行動ては 事でか海を 富お さ結事当に二なぎ念四
がボ 張すらの イく務お アが 、ら道堪あ山かボセ婚でには年り 財年
とラ つがはをア機にり大ので存ス小能ま出げラるをはあい半ま再団一
うん て航を会なま変皆き分キ樽すり向とんこしありろのしごに〇
ごテ い富海 皆がるす楽様まに 1市るす中思テと 、りがい間た練着月
ざイ き山訓 し様あと しとスに出こるで フィも新まとろ 、習任に宮
いア たで練 みかり、 いスたキ親身と事はてアでたすとボ 腰
まの 所と生の にらまな 思キ。 1しのがの おのきながごおラ 勤て財
し皆 て思活練 し誘せか い 1昨行ん私で出船り皆ま生 ざ世ン 務二 俊
た様 いを習 てつんな 出に年なではき来隊ま様し活唄い話テ に年帆光
ま思船 まい ス いてがか とい いき まな勤すのたを年まに イ 就六船
本 ま思船 し まつボ ま五しい務 ご すーしなア く力海

く付 でを受 と様境里んに練一りの 帰一三し
おけボ活今け周な々ののだ期習〇が皆こし日月たこ
願てラか後な圓りな中沖日待船月と様のまに末への
いこんしのがま事で縄のとを 立 うに二す航を財度
しれテ仕ら方しは五とこ不離 山 は年 海持
まか イい事過々た私感はと安れ 山 大半 訓ち帆二
すらアキやごや にを全をを 連 い変の 練ま船年
。ものたひし、 と通く思抱初 峰 まお間 所し
海皆いいた大 まし異いきめ 銀 がし世 ので 王お古
王様とて富自 ててな出富て 色 銀話ボ 練退
丸も思は山然 大体 まし山の にラ 記話
を体い人でに き験たまの陸 な 平な 船し
よにま生の恩 なで自す土上 成りテ 船し
ろ気すの生恵 収き然 に勤頃 財な 正
しを 中活を 四、イ に四団り
穫た環郷踏務 年あア 復月をま

力の に皆の面たい数しア
を皆今 な様でを たえはの二あ
よ様後 りかす埋当だまじ皆年
ろのも ちがめ初きしめ様前が
し間、 感も はるはあ たたをに
くを海 謝投最の 一つ海
お繋王 し稿近に原 些舵な王
願ぐ丸 てをは 稿 末輪ぐ丸
いもと おいボ四が と なーもと
いのボ りたラ苦集 う紙もの、
たとラ まだん八ま一面、とボ
(じし すけテ苦 ざを二しラ
望までテ る いすい読三てノ
遠鏡 ふ よアた ほん号發テ
ごイ うのも紙してを行イ
協ア

ん向海 とりラを信をくれ修民 否致いな上の造でと以係は とぞ 「にはで久い永
。け王こ考 海持し披こか縫の海定命船るも補物すい上留一大 」えは あ係まい富
ら丸れえ 王テって露とら工方王での的だの長修が こも船五洋当
れをかま りていしでも事の丸きなけか持を毎こと現とくを時
るきらす はア接ま続 定をごはなダにもち行年れば役は二渡思
こつも、 現の しすけ多期受理 いメ少知をえ は 船い〇るつ
とか多 役皆 いここのなまをいこジである 画人はし のも
をけく 船様 たのと方修し得なろをもせとふ的間りて海現寿の
願にの でがだ海が々縫たて事で被手んいつにの驚使王代命で
つ海方 あおく正でにを にするを うう相つ異ね丸にがす。
てやの 止船開 い多丸きそ受を大多 町抜逆良の当く的れがあ平
統 みし ま港が ける くにるのけし規く能けに つたで六、均
限ボ情確姿いこな県 は 古に以度構とる年 に
は、古に以度構とる年 に
め私身恒思分